

第6回(仮称)
第3次都心まちづくり計画検討会

議 事 録

日 時:2026年2月24日(火)午前10時開会
場 所:札幌市役所本庁舎 12階 1号・2号会議室

1. 開 会

○事務局(伊関都心まちづくり課長)

定刻となりましたので、ただいまから第6回(仮称)第3次都心まちづくり計画検討会を開催いたします。

本日は、年度末のお忙しい中をご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

私は、事務局を務めます都心まちづくり推進室の伊関でございます。本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、まず初めに、配付資料の確認をさせていただきたいと思います。

お手元に配付しております資料は、次第、資料1の座席表、資料2の(仮称)第3次都心まちづくり計画検討会委員名簿、資料3の本日の計画検討会資料、資料4の計画最終案の本書、資料5の計画最終案の概要版でございますが、皆様方、不足等はありませんでしょうか。

もしありましたら、事務局までお声がけをいただければと思います。

続きまして、本日の委員とオブザーバーの皆様の出欠状況をご報告させていただきたいと思っております。

本日、片山委員、池田委員、島口委員、渡邊委員、オブザーバーの草野委員、矢野委員はご都合によりご欠席をされております。

なお、島口委員の代理といたしまして、札幌大通まちづくり株式会社取締役副社長齋藤友子様、草野委員の代理といたしまして、北海道開発局札幌開発建設部都市圏道路計画課長尾野定巳様、矢野委員の代理といたしまして、北海道石狩振興局地域創生部地域政策課長杉村勝彦様にご出席をいただいております。

続きまして、事務局を務めます札幌市都心まちづくり推進室でございます。

また、事務局の補助といたしまして、業務受託者の株式会社ノーザンクロスが同席してございます。

なお、報道各社の皆様におかれましては、この後の写真・映像等の撮影はご遠慮をいただきますようお願いいたします。

また、本日の検討会につきましては、個人に関する情報など非公開情報を除きまして、会の次第、出席者氏名、発言者等記載しました議事録を作成し、公表いたしますので、ご了承をいただきたいと思います。

それでは、村木座長に以降の会議の進行についてお願いしたいと思います。

村木座長、どうぞよろしくお願いいたします。

2. 第6回検討会資料説明

○村木座長

おはようございます。

今日で最後になりますが、ご活発な意見交換ができればと思いますので、引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、議事に入りたいと思います。

次第に従って、事務局から資料説明をお願いいたします。

○事務局(杉原推進担当係長)

都心まちづくり推進室の杉原です。

私から、20分前後のお時間をいただき、説明させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

まず、配付資料の説明からさせていただきます。

本日配付しております資料4の計画最終案(本書)につきましては、前回の検討会及びパブリックコメントで提示した案にはなかった表紙ですとかインデックスなどのデザインの体裁を整えまして、末尾に参考資料を追加したものとなっております。

これまでご提示した案では、表紙や目次にもページ番号が振られておりましたので、全体的にページ番号自体は後送りになっている点にご留意ください。

また、パブリックコメント開始時点のものは、概要版と併せて委員の皆様にはメールにて送付させていただきましたが、中身につきましては、誤字、脱字などの文言の修正ですとか、画像データ

の色合いや画質の調整など、微修正を行ったのみとなっております。

ここで、資料4は大変分厚くなっておりますが、本書の後ろのほうの140ページを開いていただけますでしょうか。画面にも投影させていただきます。

改めて、本題に入ります前に、これまでの検討会の歩みを振り返らせていただきます。

本検討会は、令和6年6月に第1回を開催しまして、これまで5回の検討会にてご意見を賜りました。

また、居心地が良く歩きたくなる都心まちづくり検討部会及び都心の脱炭素化に向けたエネルギー施策検討部会の二つの専門部会を設置し、いずれも5回にわたり専門的な知見から詳細な検討を重ねていただきました。

委員の皆様これまでの多大なるご尽力と活発なご議論に対し、改めて深く感謝を申し上げます。

また、この間、並行しまして、市役所庁内における関係部署との調整、市民や来街者の皆様の意向を把握するためのアンケート調査や街頭調査、関係組織・団体との意見交換、また、ここには記載はありませんが、市議会でも報告、質疑を経まして、今回の最終案の取りまとめに至っているところでございます。

それでは、お手元の配付資料3に基づき、本日の内容について説明させていただきます。

2ページをご覧ください。

まず、パブリックコメントの結果についてご報告をさせていただきます。

意見募集は、令和8年1月9日から2月9日までの1か月間実施いたしました。

結果として、7名の方から合計12件のご意見をいただいております。

提出方法としては、ホームページの入力フォームからが5件、郵送が2件でございました。

また、この期間、計画対象区域の町内会の役員会やエリマネ団体などに計画案の説明も行ってきました。

続いて、3ページから5ページにかけて、いただいた主なご意見の概要と、それに対する札幌市の考え方の案を記載しております。

パブリックコメントの結果につきましては、追ってホームページにて公表し、計画策定時には巻末の参考資料にも掲載する予定でございまして、本検討会にて速報という形で共有させていただくに当たり、現時点での回答案ということでお示しさせていただきます。

まず、第1章に記載の計画対象区域に関連しまして、北海道大学周辺まで交流拠点を広げるべきとのご意見をいただきました。

本検討会でもご意見に上がりましたが、市としては、北海道大学周辺は都心周辺の高次機能交流拠点として位置づけ、都心との連携を強化していく方針であると回答したいと考えております。

次に、第4章の取組の方向のうち、目標1「多様なひと・もの・ことが集まり新たな産業・文化・交流が生まれる都心」に関連したご意見としまして、宿泊施設整備やMICE誘致、ナイトタイムエコノミーの推進に当たり、IR、カジノや風俗産業を含まないことを明記すべきというご意見がありました。

これに対しては、本計画における取組はIR整備を前提としたものではなく、特定の業種を想定したものではない旨を回答しまして、引き続き、誰もが安心して楽しめる健全なにぎわいの創出に取り組みたいとしております。

また、都心の再開発促進のため、高さ規制の撤廃など大胆な規制緩和やインセンティブ設計を行うべきとのご意見につきましては、現在も、都心における開発誘導方針などに基づき容積率緩和などのインセンティブを講じていまして、追加施策については、今後、中期アクションプログラムを策定する中で、上位計画との整合や景観への配慮などを含めて検討していきたいと考えております。

4ページをご覧ください。

続いて、目標2「冬でも、誰でも、まち巡りが楽しい都心」に関しましては、自転車通行空間においてポールなどで車道と明確に区別すべき、駐輪環境を整えてほしいといったご意見をいただきました。

積雪寒冷地である札幌において、冬期間の除雪作業の支障となるため難しい取組もございまして、自転車が通行しやすい空間の確保に取り組むこと、また、需要に応じた駐輪場の整備などの総

合的な駐輪対策を推進してまいりたいと考えております。

そのほか、公開空地等でのマナー問題への対策、歩行者優先の交通政策や公共交通の利便性向上を求めらるご意見に対しても、施設管理者と連携した管理運営体制の検討や持続可能な公共交通ネットワークの構築を進めてまいります。

5ページをご覧ください。

目標3「気候風土に即した先進的な取組により脱炭素化・強靱化が進む都心」に関しては、太陽光発電設備の排熱に関する懸念や制振構造部材のデータ改ざん事例に対する懸念、大雪時の交通確保に関するご意見をいただきました。

本市としての考え方は記載のとおり整理しておりまして、中でも冬の交通確保については、関連計画や事業者と連携して取り組んでまいりたいと思っております。

最後に、札幌独自の個性を強化し、リトル東京化を避けるべきとのご提案については、本計画でも「ひと」「ゆき」「みどり」をキーワードに、札幌ならではの都市ブランド力の強化に取り組む方針であり、大変合致する内容であると考えております。

以上がパブリックコメントの報告となります。

これらのご意見も踏まえまして、本日お示しした資料4を計画の最終案とさせていただきます。

本計画の今後の策定までの流れとしましては、内部手続を経た上で、3月中に正式に策定とし、ホームページなどで公開する予定で考えておりますが、続きまして、この計画の最終案について少し説明をさせていただきます。

6ページをご覧ください。

前回、第5回の検討会でお示しした計画案から、パブリックコメント開始時点で変更した点について、委員の皆様にはメールにてお知らせした内容と重複いたしますが、これまでの検討会でいただいたご意見を踏まえた修正にもなりますので、簡単に補足説明をさせていただきます。

まず、中段、3章の理念・目標と都心の構造において、新たに目標相関図を作成しました。

資料4においては、38ページになります。

これは、本計画で掲げる三つの目標が独立しているのではなく、相互に相乗効果を生み出すものであるということを示したものです。

また、図の中央部分の理念の表現として、誰もが豊かな時間を過ごせる札幌都心ならではの暮らし方・働き方を想起させるイメージとして、複数の写真を配置しました。

前回の検討会でも、札幌らしいパブリックライフとは何なのか分かりにくいというようなご意見もございましたが、何か定型のイメージに絞るのではなく、札幌の都心では、春夏秋冬、屋内、屋外と、多様な場があり、そこで人々が思い思いに過ごせ、様々な活動が生まれるということが札幌の都心らしいパブリックライフであるという思いの下、このようにまとめたところです。

続いて、7ページをご覧ください。

資料4では59ページとなります。

第4章の取組の方向において、目標1-2-1エリアの魅力や個性の発揮に関連しまして、第2次の計画に基づき制度化しました都心における地区まちづくり推進制度の説明を追加しました。

60ページには、現在都心で活動しているエリアマネジメント団体の現況を追記しておりますが、多くの地区に出てくるまちづくりルールの策定は、地区まちづくり推進制度によって地域が開発、調整に関わるという運用ができております。

今後、継続的なエリアマネジメント活動の推進にも活用できる制度としての発展を検討し、地域主体のまちづくりがより活発に行われるよう推進していきたいという思いで加筆したところです。

同じく、第4章となりますが、資料4の77ページとなります。

目標2-2-1都心に必要な交通機能やアクセス環境の確保の項目において、今回は荷さばき等の項目に含めて記載しておりました駐車場施策について、駐車場施設の適正化や集約化は都心の交通環境を考える上で極めて重要であるため、独立した項目へと変更し、内容の充実を図っております。

続いて、資料4の87ページから91ページになります。

目標2における主要回遊エリア、主要検討路線の説明の部分の構成を大きく変更しております。

前回時点で空間形成指針として記載していた内容は、特に第一部会内でご指摘いただいていた

ことを踏まえまして、91ページに空間形成の基本的な考え方としてコラム形式に変更いたしました。

代わって、第一部会の説明資料として提示していましたが主要回遊エリア、主要検討路線の設定根拠を差し込んだ形となっております。

続いて、資料3の8ページをご覧ください。

資料4においては、本編の最後に当たる138ページとなりますが、札幌都心の将来イメージを示すイラストを新たに追加いたしました。

これは、ここまでの計画本編に記載してきた、二つの計画を統合した狙いや、三つの目標を実現するとどんなまちになるのかというイメージを市民の皆様にも直感的につかんでいただけるよう、イラストで表現したものとなります。

このほかの変更点は、記載のとおりとなっております。

では、最後に、配付資料3の9ページにお戻りいただきまして、計画策定後の今後の進め方についてご説明いたします。

計画の第6章に記載しました(仮称)都心まちづくり推進委員会や中期アクションプログラムについて、中身の詳細までご提示できるほど詰め切れてはいない状況ではございますが、計画を策定して終わりではなく、どのように実行に向けて進めていくのかのイメージについては皆様とも共有させていただきたいと思っております。

まず、都心まちづくり推進委員会は、計画書に記載した右の図のとおり、多様な主体にご参画をいただく予定でございます。

少なくとも年1回行う定例会の中では、行政からではなく、エリアマネジメント団体や企業の取組など、都心で起きている動きをそれぞれ共有することから始めたいと考えております。

また、この計画の進捗管理の肝となりますモニタリング指標のデータとその分析について市から提示し、都心の現状を皆さんと把握した上で課題を整理し、どのような取組が足りていないのか、各主体がどのようなことをやっていくべきかという意見交換を行うことを想定しております。

その下の囲みにあります中期アクションプログラムの検討に関しては、必要なタイミングで集中的に開催することと想定しておりますが、定例会での議論を下敷きに、短中期的に実施する具体の取組をロードマップ化し、指標を整理していくに当たって意見を交わしていきたいと考えております。

10ページをご覧ください。

来年度からのおおよその想定スケジュールを置いてみました。

上段が令和8年から9年の2か年、下段が令和10年からの2か年となっております。

赤字で表示しております本計画における中期アクションプログラムは、来年度の上半期をめどに取りまとめたいと考えております。

また、一番上には全市的な市役所の動きを参考として掲載しております。

毎年度の予算要求・査定の流れのほかに、緑色の横棒で表示しているところですが、こちらは都心まちづくり計画の上位計画にもなります戦略ビジョンです。こちらにも5か年のアクションプログラムがございまして、こちらで事業の位置づけをしないと、市として予算の裏づけが取れないという仕組みになっております。

そのため、令和8年度に取りまとめる第1期中期アクションプログラム、バージョン1としましたが、こちらでは、どういう順番でどういう手を打っていくべきかという整理をし、令和9年度に策定する戦略ビジョンのアクションプランの中で予算を伴う事業として構築していけるよう研究、調整を図り、戦略ビジョンのほうができたら、改めて本計画の中期アクションプログラムにも適切に連動、反映させていくというような流れを想定しております。

資料の11ページには、1期目の中期アクションプログラムの構成イメージを記載しております。

現況データの提示に加え、計画に位置づけた目標ごとの取組の方向、それぞれに関連する取組、こちらは既存の取組を含めて網羅的に整理することがまずは必要になってくると考えております。

項目によっては、既にやれていること、やれていないことも見えてきますが、先にこちらをやらないと、こちらの取組には進めないといった段階的、優先的に取り組むべきことも整理できそうだとこのところを踏まえまして、この中期アクションプログラムの目玉としては、④当面、戦略的に実施

するプロジェクトを打ち出したいと考えております。

資料に掲載しているテーマや取組案は、現在まだ検討中であり、内部調整もついていないため抽象的な言い方にとどまっているものも多いのですが、計画書にも記載しましたE！まち開発推進制度の強化、拡充を軸とした三つの目標を一体的に実現するための開発誘導ですとか、目標2の実現に向けた施策、地域が主体となったまちづくりを推進するための施策、そして、本計画そのものの周知と、目標1でも言及しているシティプロモーションに取り組む発信を候補として検討しているところです。

内容自体は、もう少し事務局案を精査した上で、今後立ち上がる推進委員会にて提示し、ご意見をいただくという流れを考えておりますが、最終的にはいつまでに何をするかというロードマップと、その取組をどう評価するのかという指標の設定まで整備していきたいと考えております。

以上が、計画策定後にどのように進めていくのかという今時点での案の説明となります。

最後に、配付資料3の12ページをご覧ください。

本日は、この第3次都心まちづくり計画検討会として最後となりますので、2年間にわたる検討会の締めくくりとしまして、委員の皆様からは、次年度以降に向けて、この計画の実効性を高めるための視点などについてのご意見や、2年間の検討会を通じての総括的なコメントなどを頂戴できればと考えております。

事務局からの説明は以上でございます。

皆様からの忌憚のない意見を賜りたく存じます。よろしく願いいたします。

3. 意見交換

○村木座長

事務局からいただいている今日のシナリオによりますと、今日が最後の検討会なので、今日参加されている全員の委員からご意見をいただくことになっております。

12ページに本日コメントをいただきたいことと書かれていますが、次年度以降に向けて計画の実効性を高めるための視点と2年間の検討会の総括などについて、お1人5分ぐらいまででお話を伺えればと思います。

愛甲委員から順にお願いしたいと思います。

○愛甲委員

何から話をすればよいか分からないのですが、非常に分かりやすくまとめていただいて、よかったのではないかと個人的な感想を持っております。

特に、私の関連している緑の観点から言いますが、目標1と2のところに具体的な取組も含めて入れていただいて、よかったのではないかと感じております。

見ていて感じたのは、これらの様々な取組の組合せといいますか、基本方針に基づいてそれぞれのフレームができていますけれども、それらの連動というか、どういうふうに大きな目標にそれぞれが役割を果たしてつながっていきけるかが大事かと思いました。

例えば、1-2-3のところ、みどりのうるおいと木のぬくもりなどと挙がっていますがけれども、逆にこういったことがその前後にあるような誰もが快適に過ごせる環境の整備だったり、その次にある景観の形成だったりということにどうつながるのか、それぞれがばらばらに取り組みされるのではなくて、都心のまちづくりをするときに、一つ一つここに上がっている基本方針や要素や取組が連動した結果として、最終的な目標の達成につながるように、さっき進捗のところの説明があった中期のアクションプログラムだったり、推進委員会で議論できればいいのではないかと思います。

一つ一つは、それぞれの部局や事業などで着実に取り組まれていくのでしょうけれども、結果的にそれが最終的に掲げている目標や理念につながっているのか、それがばらばらにやられているのかというところは確認していくということですね。

これをぱっと見たときに、全体的なところは誰がチェックするのだろうかと思ったのです。指標がそれぞれ立っていて、取組があって、取組がこのぐらいいやられました、指標でいうと、目標1と2と3は、かなり具体的な数字を上げたりする指標が選ばれているので、それが結果的に理念で言っているような目指す姿につながっているのかどうか、それを読み取った上で、目指す姿は定性的

な文言で表現されているので、そのつながりが分かるような評価を推進委員会でできるといいのではないかと感じます。

ずっと見ていて、目標3の基本方針3-1に関する取組は、エリア区分と対象が明確に書かれていて、すごく分かりやすく、これはいいなと思って見ていたのです。これに対して、ほかの基本方針ではこういう書き方はしていないので、これと見比べてしまうと、ぼやっとしてしまうという印象を抱いてしまいましたが、いずれアクションプラン等を検討していく中で、目標1や2のところでもこういう考え方を持たなければいけなかったのかなと思ったのです。

それは、整理の仕方としても、より具体的な取組を進める上でも重要だと思うので、よかったと思っていますし、それが取組につながればいいなと思いました。

○池ノ上委員

私も感想から申し上げます。

最近の都市計画といいますか、まちづくりの時流として、パブリックスペースを豊かにしていったらいい、もっと札幌らしいパブリックライフを際立たせていく、つくり出していくという大きな流れがあります。本当は、もっと尖った、踏み込んだ、バルセロナのスーパーブロックみたいなものができればいいのでしょうけれども、いきなりそんなことはできない状況の中で、今ある歩道空間、大通公園というパブリックスペースを豊かにしていきながら、もっと豊かで人が過ごしたくなるような都心の空間にしていくというプロセスの計画なのだと思っています。

そういう意味で言うと、どこのパブリックスペースをもっと豊かにしていくかということがしっかりと描かれていると思いますし、豊かな過ごし方を引き出していか、つくり出していくような仕掛け、ビジョン、方向性は描けていると思っています。

ただ、これからそれをどう実現していくのかという問題がありますが、私はこれでゴールではないと思っています、スーパーブロックをするかどうかは分かりませんが、この先、官民で連携して、豊かなパブリックスペースをもっと増やしていく状況をつくっていきけるといいのかなと思います。

まちの中で話をしていると、この道では車はもっとスピードを落としたほうがいいよねとか、二条市場の辺りは、歩行者天国というか、車を止めたほうがもっと栄えるのではないかと、歩道に観光客があふれ過ぎて地元の人が歩けないという声も聞きます。いわゆる観光のジェントリフィケーションみたいなものが起こっていて、地域の人がそこに住めないだけではなく、そもそも寄りつかないみたいなことが続いていくと、札幌らしさがどんどんなくなっていくので、そういったところがまた新たに見えてくると思っています。

そういう意味で途上なのだと思うのですが、そうすると、最後のほうの(仮称)都心まちづくり推進委員会なるものがどう機能していったらいい、あるいは、地区計画みたいなものとか、地区において、より詳細で丁寧な動きが大切になってくると思っています。この推進委員会をどう動かしていくか、そこに誰が参画するのかということが重要になってくると思っています。

また、モニタリング指標ということで、データの分析と提示と書かれていますが、その辺の途上であることを意識しながら、しっかりとデータでウオッチしながら、いい方向に進めていくということも大切かと思っています。

最後に1点、これも検討の上なのかもしれないですが、札幌のDMOが立ち上がっています。先ほどの観光のジェントリフィケーションみたいなことも都心の大きな問題にはなってくると思いますので、都心まちづくり推進委員会にぜひそちらも入れた上での検討ができるといいなと思います。直接入れるのか、コミュニケーションを取る仕組みをつくるのか、やり方はいろいろあると思うのですが、そのあたりも今後の課題として検討していただければありがたいと思いました。

○小篠委員

すごくよくまとまってきたという感想ですが、計画本書をつくるのはかなり大変だったと思います。

そこで、都市構造の話とエネルギーの話について、二つの部会をつくって進めてきた中で、その最終的な成果は何なのかというところが見たかったですけれども、そこがもう一つかなという気がします。

というのは、46ページの見慣れた骨格構造の話というのは、第2次のときからずっとあるわけで、軸と拠点ですね。そして、もう一つは、まちづくりゾーンと言っていますが、49ページの地区がゾーニングになっているもので、それがうまく重ならないかと思っています。

まちづくりゾーンと言っているのは、進捗管理区域を区切って、それぞれのところからデータをきちんと収集しましょうとなっていると思うのですが、この二つが重なった状況で出てくるまちづくりの戦略があつていいと思いました。

そこで、次年度以降、実行に移していくときの視点を共有化しておいたほうがいいですし、来年度はもうすぐですから、その辺で少し考えられるところを述べておきたいと思います。

パブコメの冒頭に、北海道大学周辺まで交流拠点を広げるべきという話があつて、さらっと流していますけれども、高次機能交流拠点と言っているのは、整開保で決めているやつですね。要は、北海道の区域マスタープランで定めているゾーニングになっているわけで、これもエリアをちゃんと指定しているわけではなくて、北海道大学周辺区域みたいな名前になっていたと思います。一方で、今回の都心まちづくり計画の範囲ぎりぎりまで取ってきたというところですけども、既にかぶってしまっていると思うのです。

何を言いたいかという、二つのばらばらな計画が重なり合ってきている状態で、矢印を入れてくれたところもあるのですが、パブコメに対しては、いやいや、うちうちでやるよみたいな書き方になっています。それはちょっと置いておいたとして、本音のところは、道と協議するという姿勢がもっとあつてもいいのかなと感じます。

北海道はただ定めているだけだと思っているかもしれませんが、それぞれの計画の中で重点を置くような区域をつくっているの、それらがどう相乗効果をもたらすのか、どんな手だてがあるのかということは、一度、協議のテーブルにのせたほうがいいのではないかと聞いていました。

というのは、実現可能性を考えると、どんな玉があるのかということや誰と話せばいいのかと。市がやらなければいけない作業は、ほかの官庁とどのように連携を取っていくのかということです。特に都心において、今まで北海道と戦略的な関係を持っていたかどうかは分かりませんが、むしろ、国交省、開発局に行っていたと思いますけれども、少し八方美人的にいろいろな手だてを取っておくというのは大事ではないかと思えます。

そこについて、最後に話のあった推進委員会の冒頭に、あるいは年度明け早々ぐらいに、自分たちのマイルストーンとして何か位置づけておくということもすごく大事ではないかと思えました。

もう一方の手がかりは、地区まちづくり推進制度でつくっていただいたというか、それぞれがやりたいということで推進していただいた7地区がありますね。

私は創成イースト地区に何となく関係しているのですが、創成イーストリンクも総会みたいなものを今度やりますけれども、やっとなってきたというところですよ。

エリマネ団体という形でそれぞれ位置づけていると思うのですが、この地区の活動団体にはいろいろな人がいて、市民もいれば、まちづくり会社もいれば、企業もいればという形になっていると思うのですが、そういった人たちがプレーヤーになるはずなので、そのプレーヤーや目標に対してどういう動きをしてほしいのか、それに対してどんな支援制度があるのかというところをタイムスケジュールに合わせて明確に示してあげて、それぞれ動きやすいようにしてあげる、それを推進委員会で進捗を確認する、そういうところをかなり綿密に立ててあげるのがいいと思いました。

今、ここから外れているのは、地主さんとか、このエリアに住んでいらっしゃる方とか、そこで仕事をなさっている企業の人たちに何をやっていただくのかというところですね。単に計画ができましたよといって傍観していても駄目なので、これをやってください、そのためにこういう資金を導入しますという明確さが次のアクションを動かすための重要な視点になると思っていて、そこは明確で具体的なプログラムをつくっていただきたいと思えます。

というのは、ほかにも行政計画がたくさんあつて、最後に必ず、こういう推進に対してどう思えますかとか、どういうことを入れておいたらいいでしょうねみたいなことを書くわけですけども、実現するのはなかなか難しいわけです。

今回、そこをお伺いしたいというところも明確に書かれているので、この計画こそ、そのモデルになっていただくように、細かいプログラムをもうちょっとつくる努力をしたほうがいいと思いま

す。そうでなければ、今後の進め方のスケジュールや具体が見えてこないかもしれないと思っています。

そういう意味で、60ページの七つのエリアが立ち上がってきたというのはいいことなのです。第2次で定めたよということ、そこから4年ぐらいたって、こういうのが出てきて、それぞれで動いている。これがなかった頃は、いわゆるゾーニングは書けなかったのです。これが出ているから、軸にゾーンを入れることだってできるかもしれないということです。

ということで、札幌都心も一枚ではなくて、それぞれの地区でそれぞれの色がついてきたというところが明確になってきました。これは、今回検討したよい成果ではないかと思います。また、それを推進して、それがエネルギーの話ともリンクしているではないかというふうになっていくとよろしいと思っています。そのように書いてははいないけれども、玉が出てきたのをつなぎ合わせて統合していく作業は最後にやってもいいのではないかと感じました。

○高野委員

目標2に対応する形で居心地が良く歩きたくなる都心まちづくり検討部会を設置して、目標2に相応するものを検討した結果として名称がかなり変わりました、「冬でも、誰でも、まち巡りが楽しい都心」となりました。

部会での議論として、車椅子を使用されているとか、歩きたくても歩けない方もおられるわけで、そういう方を念頭に置いたときに、「歩きたくなる」ではなくて、もっといろいろな形でのまち巡りということや、「冬でも」という言葉は入っているのですけれども、現実問題として、冬に車椅子で都心を歩こう、まち巡りをしようと思うと、物すごくハードルが高いわけです。ですから、目標を掲げたけれども、実際にアクションプログラムをつくっていくのは難しい点がたくさんあるのですが、一つの目標として、目標2の名称の変更によって、札幌ならではのそういう問題点がすごく表れているというのは、非常に重要な視点だと思います。

それから、今年度の修論で、歩行の連続性や歩道の快適性を念頭に置いて調査したのですけれども、札幌は都心部において歩車分離式信号が極めて多いということがあります。通常信号は、片方が赤でも、もう片方が青なので、斜め渡りで進んでいけるのですが、歩車分離式信号は、どこにも行けないので、とにかく黙って待たないといけないということで、連続性に阻害感があるという調査結果も出ました。車と歩行者の交差がないという意味では安全性が非常に高いのだけれども、その一方で連続性は低いわけです。

それから、歩行者は、歩道を自転車走ることを快適性の一番の阻害要因と考えています。

そして、同じ方が書いたのかどうか知りませんが、その2点がパブコメに出ていまして、4ページの自転車通行空間の確保と、四つ目の丸ポツに歩行空間の連続性ということが載っていて、いみじくもその点が指摘されています。

特に、自転車との分離ということについて言うと、車道側にはみ出した青矢羽根だったり、山形の例がパブコメに出ていますが、ゴムポールでの車道と自転車の分離もありますし、多くのまちでは、車道部分を自転車通行帯にして、ハードで仕分けをしたり、色だけで仕分けしたりということがなされています。たまたま学会で2年連続、福井に行ったのですけれども、福井は電車通りに、かなり余裕のある自転車通行帯が歩道内に設けられていて、ポロクルと同じシステムがあって、極めて快適な移動ができるようになっています。

そういう意味では、交通量との関係を見合いながら、歩道内や車道部分を自転車通行帯にして、冬は堆雪帯に、夏は自転車通行帯にということが本格的に検討されるべきではないかと思っています。

今回の計画では、次年度以降、時間をかけてアクションプログラムをつくっていくということで、135ページに推進委員会の設置とあります。丸の中に、有識者から始まって事業者、関係者がいろいろ入っているのですけれども、私に分りにくいと思うのは、「(事務局)札幌市」と書いてあるところです。

札幌市は、数年前の機構改革で、まちづくり政策局都心まちづくり推進室都心まちづくり課となっていますね。都心まちづくり課があるがために、例えば、自転車はどこでやっているのか、ひょっとしたら都心まちづくり課でやっているのか、駐車場のことはどこでやっているのか、あるいは、最近では積雪時の都心の交通が大変なことになっていますが、それはどこでやっているのか

ということになるわけです。

ですから、「(事務局)札幌市」だけではなくて、都心まちづくり課だけで全てを所掌してはいないはずで、関係する課がいっぱいあると思うので、計画の報告書では丸一つでいいと思うのですけれども、アクションプログラムのときにはもっとかみ砕いていただきたいのです。

先ほど言ったように、自転車通行帯をどうするのかという問題は、都心まちづくり課だけではとても対応できない話だと思いますし、連続性もそうですし、除雪もそうですし、札幌市はかなり巨大な組織なので、そこを外部に対しても分かりやすい形で表記していただきたいのです。先ほど道庁の話もありましたけれども、多方面にわたる問題について、札幌市役所内部の関係課も含めて、道庁や国も当然関係してきますから、そこも含めてどういうふうを考えていくのかというところを書き表していただくことは、実効性にとってもすごく重要だと思うのです。

うがった見方をしますと、先ほどのパブコメに対する回答がちょっと冷たく感じられて、各担当課だったらこう書くのではないかと、今、公共交通も無軌道の新交通の実験をしていますから、そういうことにも触れるのではないかとこの気もするので、市内部の所掌するところはどう割り当ててやっていくのか、当然、外部も含めてやっていくことも非常に重要ですから、そこについての検討も今後のアクションプログラムの中でやっていただければと思います。

○東委員

検討会の総括と実効性を高めるための視点のどちらもまとめてお話しします。

まずは、このまちづくり計画案を、事務局や関係者の皆様が、これだけ網羅的、体系的にまとめてくださったご尽力に対して、本当に敬意と感謝を申し上げたいと思います。

私のような立場から見ると、よくできているなどただただ感心するばかりですが、第4章に目標と基本方針と目標ごとの取組の方向性がまとめられていますので、これに沿って、先ほどから出ている推進委員会や、アクションプログラムの取りまとめや具体化をされる札幌市の部局の方々がどうするか、そこを明確にして進めていただくのが、実効性を高めるための一番の鍵なのではないかと一市民として感じております。

それに加えまして、それぞれの目標と、基本方針に基づく取組の方向というのは、それぞれの難易度も予見可能性も違いますので、検討の頻度や深掘りの仕方は違っていいと思いますが、進めやすいところからでもいいですし、着々と進めていただくことも実効性を高めるための一つの要素であると感じております。

もう一つ重要なのが、第5章の重点的に進める取組というところだと思います。

今回の計画は、まちづくりとエネルギー施策の統合にあると伺っているのですけれども、それを強制的にというより、分かりやすくするために、あらかじめ札幌市からガイドライン的なものをお示しになるとか、ウォークアブルとかまちづくりの方向性に関しては、エリアマネジメント団体の活動の促進あるいは連携を進めていただくということも非常に重要になると思いますので、そういったところへの働きかけをしていただくことも大事かと思えます。

全般的な総括としては、今、計画をまとめるとこうなると思うのですけれども、この2年間だけでもAIが恐ろしく進展しておりまして、あと10年、20年ぐらいすると、自動運転とか、チ・カ・ホを歩いているロボットが人型になってちょっと怖いと思うような時代が来てしまうのではないかと夢想していますが、自動運転やロボットが私たちの生活に入ってくることによって、ライフスタイルとか、エネルギーの消費の在り方みたいなものが随分変わっていく可能性もあるのではないかと予見します。

私どもの立場としては、札幌市の魅力づけ、魅力の源泉は変わらないと思うのですけれども、そういう技術の進展に呼応したまちづくりができるように研さんをしていかなければいけないのではないかと、今回、勉強会に出させていただいて改めて感じております。

最後に、委員の皆様のご意見を伺って、私も勉強になるところが多々ありまして、会社の業務にも非常に役に立つなと思って参加させていただいておりましたことに、改めて感謝を申し上げたいと思います。どうもありがとうございました。

○井上委員

今回の都心まちづくり計画は、ある程度の広さを持った都心において今後の計画をどうつくっ

ていくかという中で、札幌駅とか、大通とか、既にそれなりに人が集積していて、交流があって、にぎわっているところもありますし、少し離れた場所で新しい動きが出てくるということもありますし、これから開発が進む中で、それを連続して、軸として活性化していきたいというように、幾つかのパターンの成長の仕方があって、それをこの中に全て盛り込まれたのだろうと考えています。

それは、全て同じようにやればいいのかではなくて、既にある程度の集積があるところの進め方と、これから新しく出てきそうなどころの進め方、それから、軸として進めるときの進め方というように幾つかあると思いますので、まさにこれからまちづくり計画を具体的に進めていく中で、それぞれの進め方をどうしていくのかということの一つ考える余地があるかと思っています。

もう一つは、何人かの委員からも発言がありましたけれども、今回、都市の在り方とエネルギーの在り方を重ねて計画をつくろうとしたというのは非常に特徴的なところだと思います。もちろん、エネルギーといっても、単に電気とかガスだけではなくて、広く言うと、緑につながるような、木材活用とか脱炭素ということも都心のまちづくりと一緒に考えることによって、実はそれが最大の近道なのではないかということを表そうとしていると思います。これも、札幌のまちづくりの進め方の大きな特徴になると思いますので、ぜひ引き続き進めていただければなと思います。

今、丸の内も少しずつ進んでいるのですけれども、一旦、計画とかビジョンというものを示して、そこで終わってしまうと、なかなか次のステップに行けません。我々は、そういったときに何をしているかという、プロセスマネジメントが重要だよという話をしています。まさに今日も説明がありましたけれども、これを具体的にどういうふうに進めていっていますかということ、いわゆる官民連携で、官と民を分けるのもあまりよくないと思うのですけれども、やっぱり一緒になって、ここは進みましたよね、ここは進んでいませんよねということを確認しながら進めていくことが大事なのかと思います。

また、時間が経つてくると、少し修正をかけたほうがいいことも出てきますので、それもお互いに確認しながら進めていくことが大事で、そういう場が引き続きあるというのは非常にいいことだと思います。

そのときの時間軸の考え方ですけれども、1年単位でできること、5年単位でできること、10年単位でできることというのは、やっぱりそれぞれ違うのです。例えば、道路なら道路の使い方を変えてみるのは1年単位でもできると思うのですけれども、何か新しいインフラをつくってみようとか、1棟の建物をつくるだけだったら5年ぐらいでできるかもしれないけれども、複数の地権者の方がいらっちゃって、それを再開発しようとなると、やっぱり10年とか、そういうふうに変わってきます。それから、エネルギー施設の考え方も、更新しようとする、5年、10年は平気でかかってくることもあるのです。ですから、いろいろな時間軸を持ったものをどういうふうに組み合わせることでその相乗効果を最も早く出せるか、これは行政の考え方と、やっぱり、民間の中でそういう活動が起きてくるわけですよ。

例えば、ここに新しい建物をつくろうとか、新しい建物をつくっただけではその敷地の中でしかにぎわいは出てこないのですけれども、それを周りに広げるためにはどうするかということを見ると、周りの道路の空間や近隣の方、そこにエリアマネジメント団体があればその協力も得ながら広げていけるということもありますので、新しく出てきたものを放っておかないといいますが、それを次につなげるにはどうするかという観点からいろいろなどころを見ていただくと、これが徐々に広がって、やがては軸につながる可能性を持つてくるということではないかと思います。

時間軸をうまく考えながら使ってほしいということと、それを実行するために、これは計画だけで予算は見えないのですけれども、予算もある程度つけるということが大事だと思います。全て最初から実装に行くわけではないですが、実証実験はやってみるということもありますし、実証実験だけで終わってはもったいないので、それでいけるとなったら、民間の新しい開発と併せて実装にどういうふうにつなげていけるかというところを、ぜひ予算の面でも考えていただきたいと思っています。

先ほどもおっしゃっていましたが、全部この課で予算を持つ必要はなくて、いろいろなところでいろいろな予算はつけているのですが、それに横串を刺していくと、実は都心まちづくりの計画に使える予算というのが絶対にあるはずなのです。その横串を刺せるかどうか非常に大事なことだと思います。

○内川委員

札幌駅前通まちづくり株式会社の内川です。

計画の取りまとめ、本当にお疲れさまでした。ありがとうございます。

こういった計画ができると、エリマネ組織というプレイヤー側としては、これを基に様々な戦略を立てていきやすいなと改めて感じております。

まず、札幌駅前通地区のことだけでお話をすると、この計画をつくっているということが分かっていたので、この1年間をかけて、現エリアのまちづくりビジョンの見直しを進めてきています。その中でも、地域の皆さんと行うワークショップなどから、先ほど池ノ上委員がおっしゃっていたスーパーブロックのような展開など、そういう話題が地域の方から出てくるということがまさに価値なのかなと感じています。

私たちは豊かなパブリックスペースをつくっていきたいということもミッションとして持っておりますけれども、暗黙知的なところで動いているところが相当多いなと思っています。今後、都心まちづくり推進委員会の中に課題の共有があると思うのですが、そういったところで暗黙知的なところを整理していくことで、札幌都心のパブリックスペースがより豊かになっていけたらいいなと思ったところです。

今後の進め方で、今日の配付資料3の9ページに、推進委員会の役割を書いていたかと思えます。年に1回、エリマネ団体として取組状況を共有することになると思いますが、出てきた結果を共有するのはもちろんですけれども、それに至るプロセスがやはり大事だと思っていて、そういったことも含め共有していけるということが望ましいと思っています。ですから、この推進委員会を始める前に、どういった内容を整理していきたいのかということ、ここに参加の皆さん同士でちゃんと同じ目線を持ったほうがいいなと感じました。

今回、都心エネルギーマスタープランと都心まちづくり計画を一緒にしたということが一番の目玉かなと私も思っていますが、その発信をどのようにやっていくのかということもこの推進委員会の中できちんと考えていくべきところかと思っています。

最後に札幌都心のそれぞれのエリアで何をやっているのかということが一元的に分かるものが実はまだありません。一元的に見えるようにすることはなかなか難しいとは思いますが、推進委員会はそういった役割も持てるといいのかなと思いました。

○榎本委員

LKPの榎本です。

まず、2年間の総括ですが、2年間、すごく議論を尽くした集合知の結果だと思うので、とてもいい計画だと思いますし、エネルギーマスタープランと統合するという難題にこの限られた時間で対応したということも今回の成果なのではないかと思えます。

次に、計画の実効性についてです。広島でも、福岡でも、ビジョンや戦略をつくるお手伝いをしてますが、戦略とかビジョンの確からしさに執心してしまう傾向があります。PDCAを回さなければねと言っているのだけれども、Pだけで二、三年が終わってしまうということが往々にして起こります。そういう状況に対峙していると、そもそも計画のよさとは計画策定時点で決められるものなのかと、最近、すごく疑問に思います。

私の今の答えとしては、計画のよさは、計画策定当初に立てた目標像が計画目標時点にどのくらい達成しているかで評価されるべきだと思います。計画当初に議論を尽くすことは大事ですが、その精度や確からしさにこだわるよりも、それと同じくらい実効性にリソースを割かなければいけないのだろうと思っています。その点で、私も実効性を高めることが大事だと思います。

今回、計画期間が20年で設定されていますが、この20年は札幌市にとって機会でもあり脅威でもあると思います。

一つは、2038年に札幌まで新幹線が延びてくるという点です。もうひとつは、本州ではリニア中央新幹線が名古屋まで2034年までに開通するだろうという見込みがあるという点です。多分、本州側の国土体系ががらっと変わり、札幌の都心の構造もがらっと変わります。この変化に既存の都心側がきちんと能動的に対応するという意味では、エリアの力とか、エリアの自治の力とか、札幌市役所以外のプレイヤーを育てておくということが非常に大事なのではないかと思います。

す。

多分、投資の期待値が上がっていくと、行儀のいい事業者だけではなくて、外資も含めて変な人たちが入ってくる可能性もなきにしもあらずだと思います。そのときに、地元力というか、現場力をどのくらい高めておくのかということが非常に大事なのではないかと考えています。

では、その実効性をどう高めていくかということところです。札幌市はこれまでの20年ぐらいの間で都心のまちづくりの計画を動かしてきましたが、今の体制での取組とか第2次からの延長線上にあるものに関しては、もう盤石の体制だと思います。大通のまち会社も、駅前通のまち会社も、日本での先進事例だと思いますし、そこに対して札幌市は非常に先駆的な制度もつくってきているので、その点は全く心配ありません。課題は、大通と駅前通以外の面的に広がるエリアだと思います。今回の課題にも上げられていますが、いかに担い手をつくっていくのかということ、私も課題だと思います。政策についても、公共交通とか、ウォークブルとか、都心のまちづくりに関係するほかの政策がたくさんありますし、それに紐づく予算もあります。それらが知らないうちにほかの部署が単独でやっていたみたいないないがないように、きちんと連携体制や情報共有の仕組みを整えておくべきだと思います。

その意味では、9ページ、10ページに書かれているアクションプログラムと推進委員会が非常に大事だと思います。

アクションプログラムに関しては、ぜひ担い手を巻き込んで策定を進めていただきたいとします。推進委員会も、上期、下期で1回ずつ情報共有するだけなら本当にメールでことたりるので、きちんとまちづくりのワンストップの窓口というか、場になるような運営をしてほしいと思っています。

多分、推進委員会がエリアの担い手を育てる場になるし、官民をつなげる場になるだろうと思います。仮に官民で協調的に予算を組むならば、9月には事業概要が出ていないとそれぞれ予算化できないのではないと思うので、そういうスケジュール感を持って場の運営をしてほしいと思っています。

恐らく、おおよそ10年後に第4次の都心まちづくりの計画の改定があると思いますが、そのときに、今、民間側というか、エリア側からは2社しか出てきていませんけれども、ここがもう少し増えていると、実効力が上がったという評価ができるのではないかと考えています。

○後藤委員

UR都市機構の後藤でございます。

実効性を高めるための視点は、皆さんがご指摘のとおりだと思います。市民の皆さんに第2次とはここが違うということがあるということ、明快に分かりやすく訴求するという視点が大事ではないかと考えています。その観点からは、モニタリング指標とか成果指標をわかりやすくすれば、その都度の達成度も訴求できるのでいいのではないかと考えています。二つほど感想めいたことを申し上げます。

1点目は、市民の皆さんに、手触り感というか、自分が参加してみようかなと思わせるような、期待感を抱いてもらうような指標を設けられないかという点です。

金銭的なインセンティブなど、活動すればこういう見返りがあるとか、具体的なインセンティブの設け方は、チ・カ・ホとか、既に札幌市は先進的な取組もされていますので、それらをより広いエリアで適用するといった観点から、アクションプログラムの議論の中で検討すると面白いのではないかと感じました。

2点目は、過去の委員会で話題に上がった、若者の道外への流出問題に関する指標についてです。マクロで見ると、道内の若者が札幌に集まってくるので、トータルでは若年層も流入超過だそうですが、細かく見ると、道外に対しては流出超過になっていると。集まってくるけれども、それと同じぐらい外へ、主に東京に出ていってしまっているということです。

若者の東京への流出は、国力を高めるには、国にとってはいいことなのでしょうけれども、札幌市にとっては、将来に向けての活力という意味では、できれば戻ってきていただけるような取組をしたら、これはまた訴求力があるのではないかと考えています。

今、全国の県庁所在地がほぼ同じ悩みを抱えているわけで、なかなか正解はないと思うのですが、今回の計画で言うと、先ほど小篠委員もおっしゃった地区まちづくり推進制度で、地域の皆さま

んがまちづくりに参加する余地がどんどん増えてきているし、本計画ではそこを伸ばしていこうということを目玉の一つにしています。

これが、若者の社会参画とか、高校生が若いうちから地域に愛着を得るという相乗効果、ついでの効果もあるのではないかと考えます。成果指標としては、長い目で見ての若年層あるいは人口の流出入をいかに好転していけるかということも検討していただけたら面白いのではないかと感じました。

○酒井委員

私は、この検討会には第5回目から参加させていただいておりまして、そういう意味では、ほかの委員の皆様とは経緯についての理解のレベルが大分低いところではございますけれども、改めて今回参加するに当たり、都心まちづくり計画(案)を拝見させていただきまして、事務局のご尽力によりまして、この計画で達成しようとしているビジョンやコンセプトが大変分かりやすく、グラフィックなども活用されてお示しいただいていると思います。これまでの取組のご尽力に改めて感謝を申し上げたいと思います。

この計画案自体は、これをご覧になった方々がビジョンやコンセプトをいかに共有できるものにしていくかということが非常に重要なポイントだと思ひまして、そういう意味では非常にすばらしい計画案になっているのではないかと感じたところです。

その上で、今回、計画の実効性を高めるための視点ということでお題をいただいておりますので、一つだけ付言させていただきます。

先ほど、後藤委員からもございましたけれども、今回、計画の実効性を高めていくという点では、第6章で取組の進め方をまとめておられまして、まさに、そこをどう具体化していくかが大きなポイントになっているのだらうと思います。

その中で、今日のご説明でも、推進委員会の中でモニタリング指標のデータの分析などを定期的、定例的にしっかりやっていくというお話もございましたけれども、この点について、モニタリング指標の具体的な数値による進捗との比較で、それが達成したか、達成していないかという観点だけではなくて、このモニタリング指標と、本来この計画で実現しようとしていたこと、あるいは解決したいと思っていた課題との因果関係にも目配せしていただいて、本当にモニタリング指標が達成できたことによってやろうとしていたことが実現できているのかという観点でも定期的にチェックしていただくようぜひお願いしたいと思います。

なお、最終アウトカムとの不整合が認められた場合は、その時点で、推進委員会などの場で柔軟に、計画あるいはモニタリング指標の見直しを実施するといった取組にもぜひ対応していただけるといいのではないかと考えました。

○齋藤委員(代理)

私は、この会に1回しか出ていないので、総括と言っても、というところがあるのですが、実は30年前から既にいろいろな会に参加させていただいて、小篠委員、高野委員とはいろいろなお話をさせていただいているところです。

この30年を考えると、私どものビルが建ったのがまさに30年前なのです。そのときに、商店街では、地権者の皆さんに100年を超えた企業が結構いたのですね。その方々は、代々、ビルを建て替えるときに、必ず景観をかなり重視していたというのが非常に印象的でした。当時、札幌市には都市景観賞などもあって、それを受賞しないと駄目だよねという雰囲気は何となくありました。これからはリート物件も多くなり、商店街にも加入しない、また、街の景観も考えないデベロッパーも出てくるため、まちづくり指針は重要だと思ひます。

顧みて、この新しい都心まちづくり計画を見ていると、中にエネルギーが入ったというのは当然のことかと思ひますし、見ていてすごく分かりやすい内容であると思ひます。

特に、海外から来る、または上場企業の皆さんは、必ずエネルギーについてかなり詳しく聞かれて、我々貸す側としてはデータを提供しなければいけないという時代になっているので、札幌市として、世界に冠たるビジネス交流の拠点を形成するのでしたら、これは間違いなく大きく掲げる目標かと思ひますので、とても良いと思ひます。

実際に目標1または目標2を読んで、これは一体誰がやるのだらうと思うと、基盤整備とか環境

整備は札幌市もかなりの部分ができると思うのですが、実際につくって、実際に運用して、実際にテナントを入れて、実際にそこで商売するのは、やっぱりビルをつくっている人や商業者たちなのだろうと思います。そのときに、この内容がどこまで伝わるかというのがこれからの大きな課題になるのかと思います。

この30年で大きな変化を感じたのは、まず、駐輪場がきちんとできて、路上から全く違法駐輪がなくなって、すきとした路面になったということはすばらしい成果だと思いますし、もう一つは、小篠委員と苦労しましたシャワー通りですね。今のように、時間によって荷さばきの時間と歩行者が区別できるというのは奇跡だと思います。

日本全国でもあそこしかないのではないかと言われました。それは、年末年始も含めて、365日、各館の担当者が毎日ポールを移動をさせているということで、それができるのはあそこしかないのだなと思います。豪雪・積雪地帯ではあの仕組みが最も理にかなっているのですが、それには、みんながまちをよくしようとする気持ちがないと伝わらないのだなと思います。

当時、最初は私も反対したのですが、あそこには坂本さんという熱意のある方がいらっやって、人がまちをつくっていくという好事例かと思いました。

さて、これからの30年、次の担い手は誰かと考えたときに、やはり次の世代になると思うのです。今回、町内会を中心に計画を説明された様ですが、次の世代にもっと詳しく訴求できるような仕組みをつくらなければいけないと思いました。

できたものは大変すばらしいのですが、それを担う方々にもっと伝えるものにならなければいけないと改めて感じました。

○村木座長

それでは、オブザーバーの尾野さん、お願いします。

○オブザーバー(尾野委員)(代理)

北海道開発局札幌開発建設部の尾野と申します。

まず、2年間の検討会の総括ということで、第3次都心まちづくり計画に私どもも関わらせていただきまして、ありがとうございました。

そして、膨大な計画の素案を、課題から取組の実効性あるものにといいところまでまとめていただいて、本当にありがとうございます。

実効性を高めるための視点ということで、本書の38ページに、それぞれの取組の分かりやすい目標の相関図をつくっていただいて、目標になるものはパースで、現実的なところは写真で表しているのも、皆さまに伝えたいということが表れていると感じました。

今後の中期のアクションプログラムで発信するということに、パンフレットの作成、シンポジウムと書いてありますけれども、皆さまに伝えるということを考えますと、札幌市では広報誌の2次使用もしっかりうたわれているので、広報での取組もあってよいと思いました。

○オブザーバー(杉村委員)(代理)

石狩振興局地域政策課の杉村と申します。

まずは、世界に羽ばたく札幌市として、まちづくりの計画にエネルギーを2年間という短い期間で盛り込んだことは本当にすごいことだと思いました。

計画の実効性を高める視点ですが、道庁でも様々な計画の推進に関して、皆様からご指摘をいただくこともあり、私としては、委員の皆様からもお話があったように、各課の事業に具体的に落としとして取り組んでいくしかないと思っております。

今後についてですが、私見となりますが、今までは行政主体で物事を進めていくことができたと思いますが、行政に求められる役割が変わってきていると思いますので、まちづくりを進める民間事業者、キーパーソンの方々のサポートに徹し、まちづくりの方向性と各計画との整合性を取るようチェックしていくという役割が重要だと思っております。

○村木座長

では、最後に私からも申し上げておきたいと思うことがございます。

4点ほど申し上げたいと思います。

まず一つ目に、都心まちづくり計画と都心エネルギーマスタープランを一緒にすると伺ったときに、それは望ましいことだと思ったのですが、ただ二つの計画をがちゃっと一つにするのはどうなのか、よく都市マスタープランの中に住宅マスタープランが章だけ入っているみたいな形にならないようにするにはどうすればいいのか、これはかなりチャレンジングだと思っていました。

小篠委員がまだもやっとしていとおっしゃっていて、私もそうかもしれないと思っているのですが、現時点でできることを、一緒にしたことの意味が初めのほうにすごく詳しく書かれているというのは、心根ではないですが、そういうことなのかと思っています。

そうすると、この計画自体も第3次なので、この計画が第4次になるときにステップアップしていく、それが社会の変化などに合わせて変わっていくものになっていけばいいのではないかと思います。

考えてみると、総合計画は、各行政の中の縦割りの部門が一つになって、それが札幌市やどこの行政体でもそうですけれども、そのまちづくりの計画であるという観点では同じなのですが、何が総合計画とこの計画の違いなのかと考えると、実行する段階で縦割りをどうやって壊して、まちをつくっていく中でエネルギーとまちづくりを一緒に考えていくのか、それを運用のときにどうしていくのかということではないかと思います。

そうすると、多くの委員がご指摘されていた都心まちづくり推進委員会の役割が大事になってくるのですが、モニタリングとか、やっていることの共有だけでいいのか、もっと理解というものを含めるのであれば、年に1回状況を確認するとか、数値がどうなっているということを確認するだけや、行政がやる計画だけではなくて、多くのプレーヤーの人が一緒に考えて、一緒にやっていくというのが札幌の都心をよくしていくことなのですから、その使い方はもう少し考えていく必要があると思います。

正直に言って、エネルギーマスタープランの推進委員会をやったときに、私は初めはどうしていいかわからないぐらい、エネルギー事業者とそれ以外の方々の言葉が全然違うので、同じ日本語なのに理解できないという状況だったことを考えると、さらに専門の違う人たちがたくさん入ってくるので、この推進委員会は結構大変だろうと思います。

それを機能するようにするためには、三つ目ですけれども、アクションプログラムを考えるのに当たって、ロジックモデルをつくったほうがいいですよと事務局にこの間申し上げたのですが、ロジックモデルをつくって、各アクション間での関係を明確にしていくことが大事ではないかと思います。そうすると、縦割りをどうやってつないでいくのか、そして、モニタリングする際にどんなデータが必要で、そのデータが都心まちづくり推進室の中に入らないのであればほかのところから持ってくるという、縦割りをさらに壊すような形にもなると思いますので、そこはぜひ検討していただければと思います。

最後に、この都心まちづくり計画の表紙を見たときに、エネルギーマスタープランのときにも、まちと、まちを支えるエネルギー施設の絵が入っていたのですが、今回、さらに、人の暮らしとか都心の活動が追加されたデザインになっていて、エネルギーとまちをどうやってつないでいくのか、札幌の目指すものが絵としてすごく出ていたと思いますし、これをしっかり実行していただきたいと思っています。

どうもありがとうございました。

それでは、本日の検討会は終了しますけれども、もっと言いたいことがある方はいらっしゃるでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○村木座長

長時間にわたり、ありがとうございました。

進行を事務局にお返しいたします。

4. 閉 会

○事務局(伊関都心まちづくり課長)

村木座長、ご総括をいただきまして、誠にありがとうございました。

また、委員の皆様も、本日、大変多くのご意見をいただきまして、誠にありがとうございました。

本日の議事録につきましては、皆様に内容をご確認いただきました上で、後日ホームページにて公開させていただきたいと思っております。

また、第3次都心まちづくり計画の策定は来月の3月末を予定しておりますので、策定いたしましたら、また改めてご連絡させていただきたいと思っております。

それでは、閉会に当たりまして、都心まちづくり推進室長の二宮よりご挨拶を申し上げたいと思っております。

○二宮都心まちづくり推進室長

札幌市都心まちづくり推進室長の二宮でございます。

本日が本検討会の最後となりますので、一言、ご挨拶をさせていただきます。

村木座長をはじめ、委員の皆様には、令和6年6月より計6回にわたり、第3次都心まちづくり計画の策定に向けまして、我々行政だけではなかなか考えが及ばないような幅広い観点から数多くのご意見をいただきました。

そのおかげで、これまでのまちづくりとエネルギーの指針を一本化した札幌市ならではの新たな都心まちづくり計画をまとめることができたと考えております。

この場をお借りして、お礼申し上げます。

ただ、計画は策定して終わりではなく、実際のまちづくりにつなげていく必要がございます。本日の検討会でも、計画の実効性を高める視点で皆様から貴重なご意見をたくさんいただきましたので、新たな都心まちづくり計画に基づく施策に生かしていければと考えております。

また、計画は、時代の変化やニーズに柔軟に対応していく必要もございます。その点につきましても、計画策定後の次のステップにおいて検討を深めていければと考えているところでございます。

本日で本検討会は終了となりますけれども、皆様にはこれからも札幌都心のまちづくりにご指導やお力添えをいただく場面が多々あろうかと思っておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

これまで、誠にありがとうございました。

○事務局(伊関都心まちづくり課長)

これをもちまして、2年間にわたります(仮称)第3次都心まちづくり計画検討会を閉会させていただきます。

誠にありがとうございました。

以 上